

2022年度

アレルギー疾患に関する

アンケート調査

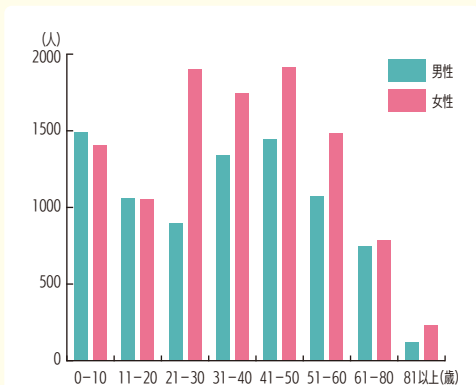
調査結果



「アレルギー疾患の多様性、生活実態を把握するための疫学研究班」では、全年齢層におけるアレルギー有病率（有症率）と個々の合併率を明らかにし、現在の日本におけるアレルギー疾患の現状を把握することを目的に、アレルギー疾患医療拠点病院の職員とその家族を対象にWebアンケート調査を実施しました。小児から高齢者までの一貫した有病率調査はこれまで少なく、アレルギー疾患の発症予防、増悪予防、そして生活の質（QOL）の改善を考える上で貴重なデータを得ることができました。

- 調査の概要
 - 参加施設 47都道府県 77病院
 - 調査期間 2023年1月6日～2月18日
 - 調査方法 ウェブアンケート
- 調査内容 アレルギー有病率（有症率）
気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、金属アレルギー、薬剤アレルギー、アナフィラキシー

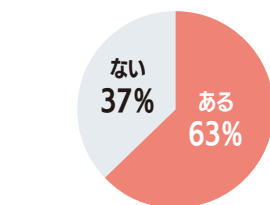
● 対象者数



対象者 **24,444人**
[男性] 10,668人 [女性] 13,776人

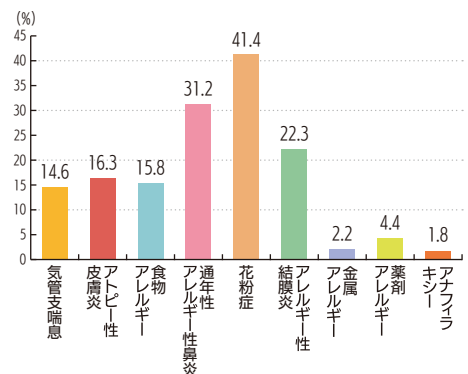
年齢 中央値：36歳(0-103歳)

● 全体のアレルギー疾患有病率



アレルギー疾患がある割合

いずれかのアレルギー疾患について、「医師に診断されている」もしくは「診断されていないがそう思う」と回答した割合

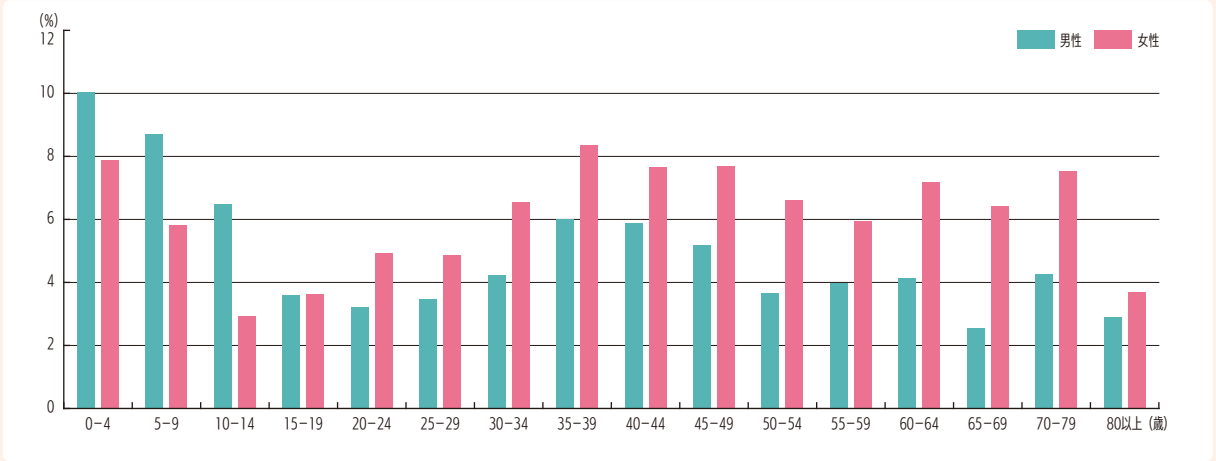


全年齢を対象とした場合、63%の方が「いずれかのアレルギー疾患がある」と回答しました。最も多いアレルギー疾患は「花粉症」でした。



気管支喘息

定義 1年以内に治療をしている、あるいは症状があると回答した方

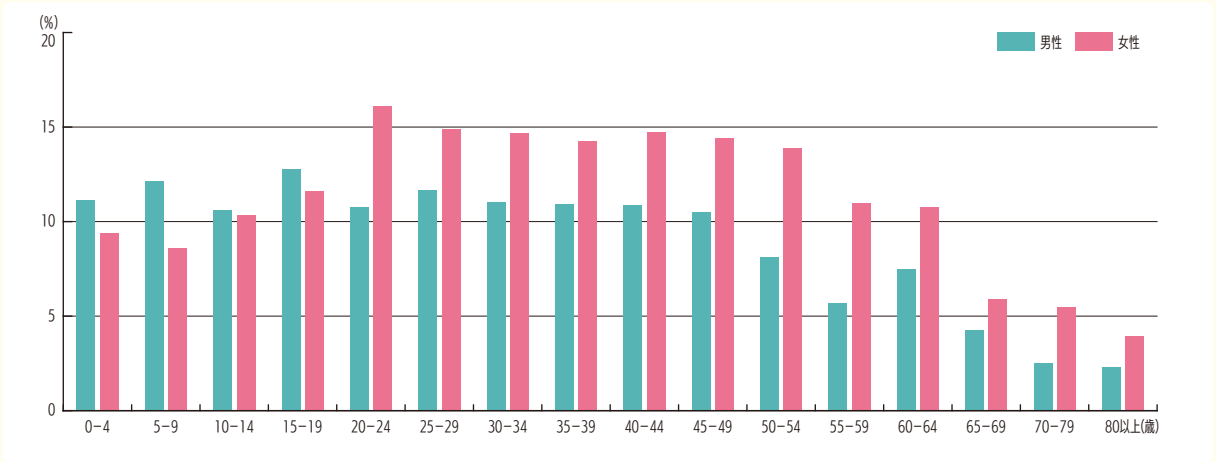


乳幼児期が最も有症率が高く、男児に多い傾向でした。
10-20代で一旦低下しますが、30歳以降再び増加に転じ、40代以降は女性に多い傾向を認めました。



食物アレルギー

定義 食物アレルギーと診断されている、あるいは診断されていないがそう思うと回答した方

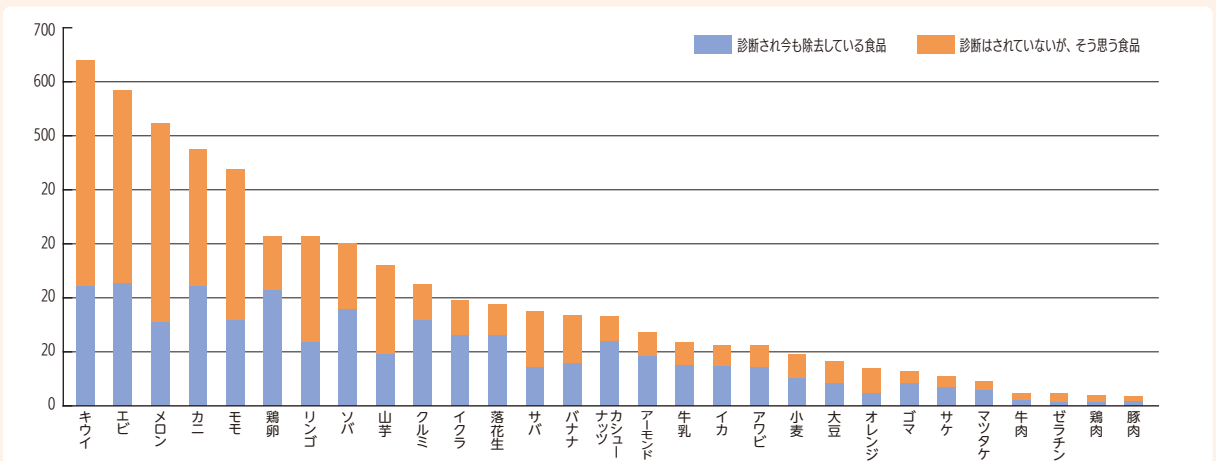


小児ばかりではなく、成人にも多くみられました。20歳以降については女性に多くみられました。



食物アレルギー原因食品 (全年齢)

定義 現在、症状のある食品

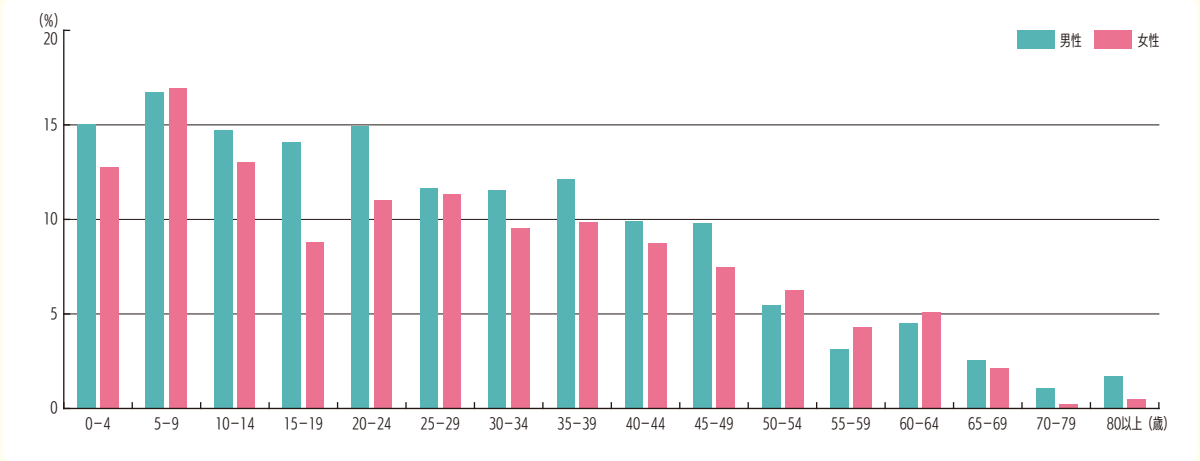


最も多いのはキウイであり、メロンやモモなどの果物や、エビ・カニなどの甲殻類が多く見られました。
また、「診断されていないがそう思う」と回答した方が約半数でした。



アトピー性皮膚炎

定義 1年以内に治療をしている、あるいは症状があると回答した方

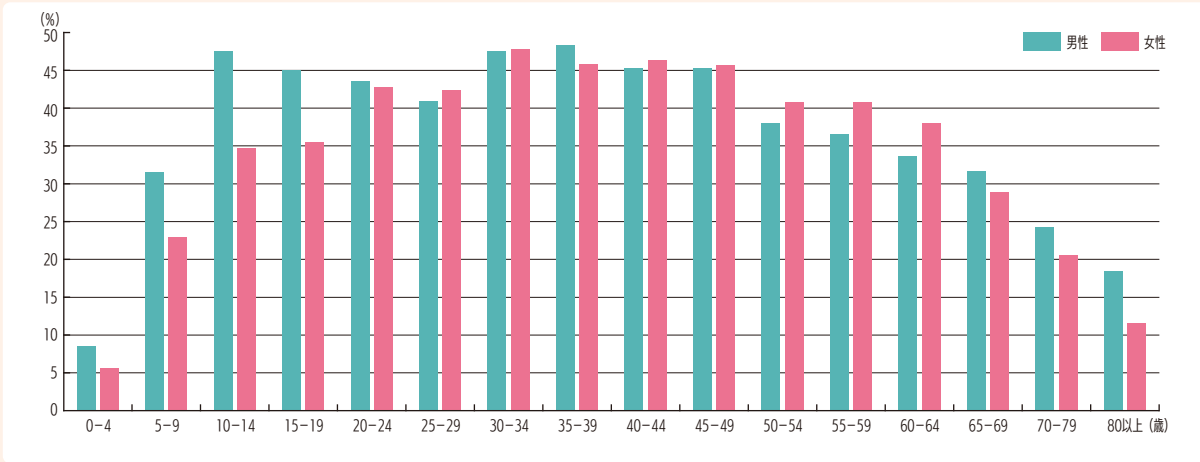


アトピー性皮膚炎は乳幼児期から10代に最も有症率が高くなり、40代頃から徐々に有症率が減少していました。乳幼児期にやや男児が多いですが、明らかな男女差は認められませんでした。



アレルギー性鼻炎 (通年性・花粉症)

定義 1年以内に治療をしている、あるいは症状があると回答した方



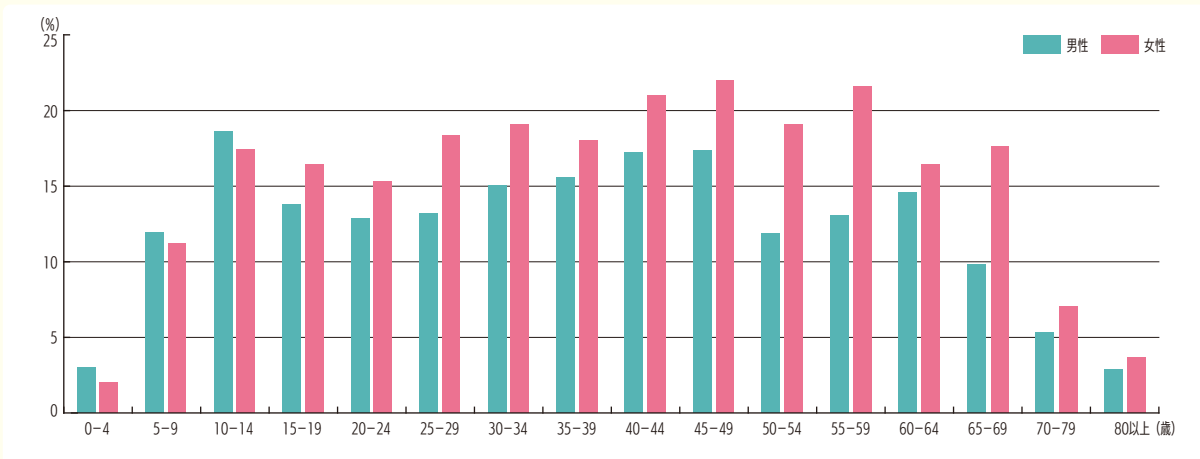
10代でピークとなりました。

昨年度の調査と比較すると症状がある・治療していると回答した割合が増加していました。



アレルギー性結膜炎

定義 1年以内に治療をしている、あるいは症状があると回答した方

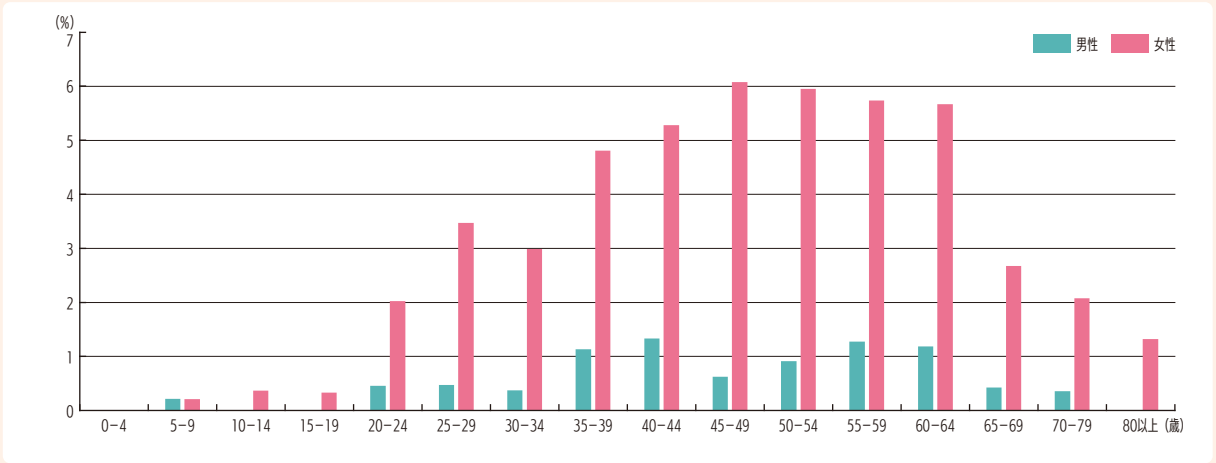


アレルギー性鼻炎と同じ年齢分布を示しました。特に40代以降については女性に多く認められました。



金属アレルギー

定義 「医師に診断されている」と回答した割合

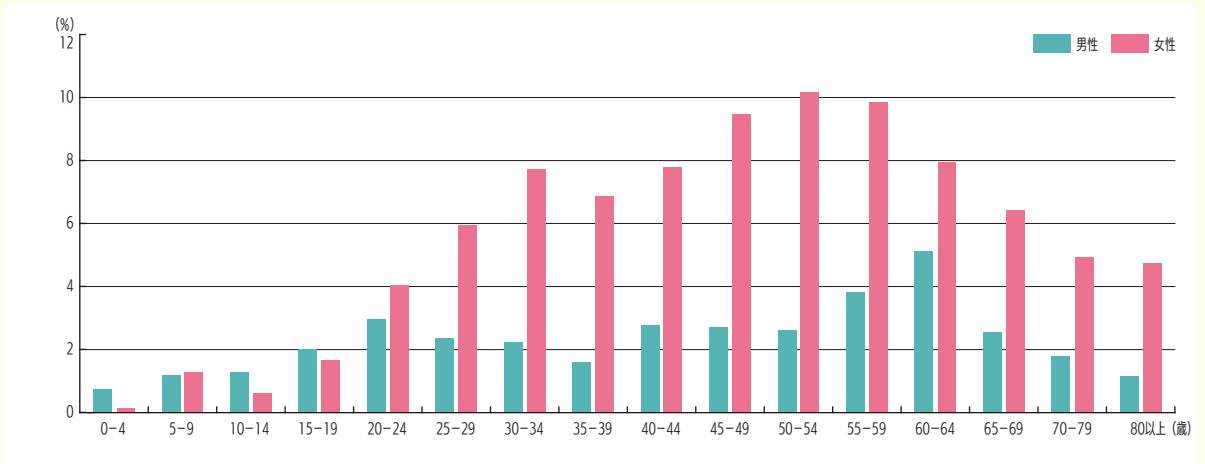


他のアレルギー疾患とは異なり、40代にピークが認められました。男性よりも女性に多い傾向がありました。原因として疑われる金属で最も多いのはニッケルでした。パッチテストにて診断されていると回答したのは22%でした。



薬剤アレルギー

定義 「医師に診断されている」と回答した割合

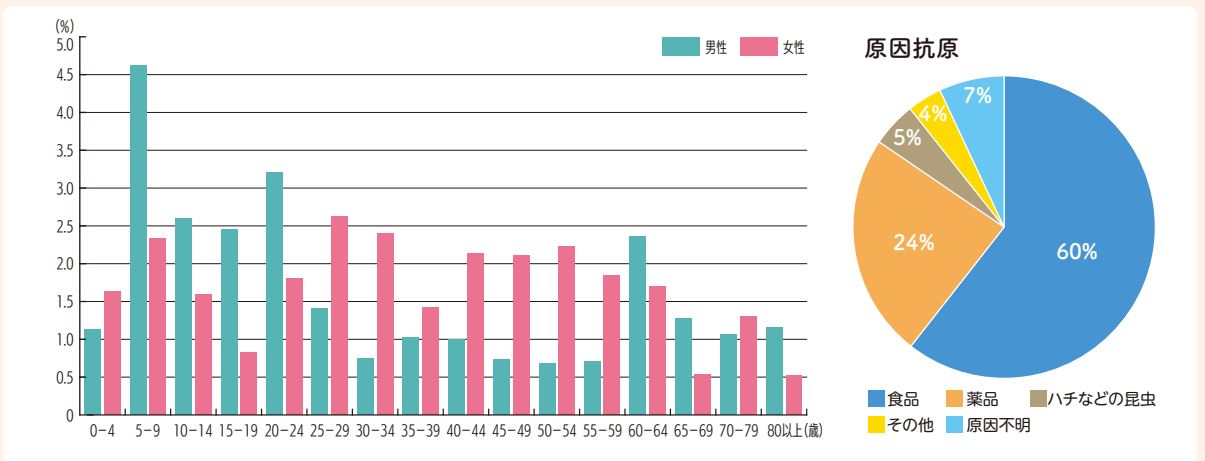


他のアレルギー疾患とは異なり、40代にピークが認められました。男性よりも女性に多い傾向がありました。原因として疑われる薬剤で最も多いのは抗生物質、次に解熱鎮痛剤、造影剤でした。



アナフィラキシー

定義 「医師に診断されている」と回答した割合



アナフィラキシーは全体としては1.8%でしたが、小児期は男性に多く、成人以降は女性に多くみられていました。原因としては食品が一番多く、次いで薬品でした。

多くの施設のご協力ありがとうございました！



● 北海道・東北地方

北海道大学病院、弘前大学医学部附属病院、東北大学病院、岩手医科大学附属病院、国立病院機構盛岡医療センター、宮城県立こども病院、秋田大学医学部附属病院、中通総合病院、山形大学医学部附属病院、福島県立医科大学附属病院

● 関東地方

筑波大学附属病院、獨協医科大学病院、群馬大学医学部附属病院、埼玉医科大学病院、千葉大学医学部附属病院、東京医科歯科大学病院、国立成育医療研究センター、東京都立小児総合医療センター、神奈川県立こども医療センター、横浜市立みなと赤十字病院、国立病院機構相模原病院

● 中部地方

新潟大学医歯学総合病院、富山県立中央病院、富山大学附属病院、金沢大学附属病院、福井大学医学部附属病院、山梨大学医学部附属病院、信州大学医学部附属病院、長野県立こども病院、岐阜大学医学部附属病院、国際医療福祉大学熱海病院、順天堂大学医学部静岡病院、静岡県立総合病院、静岡県立こども病院、浜松医科大学附属病院、浜松医療センター、名古屋大学医学部附属病院、名古屋市立大学病院、藤田医科大学病院、藤田医科大学ばんだね病院、愛知医科大学病院、あいち小児保健医療総合センター

● 関西地方

国立病院機構三重病院、三重大学医学部附属病院、滋賀医科大学医学部附属病院、滋賀県立小児保健医療センター、近畿大学病院、大阪はびきの医療センター、大阪赤十字病院、関西医科大学附属病院、京都大学医学部附属病院、京都府立医科大学附属病院、神戸大学医学部附属病院、兵庫医科大学病院、神戸市立医療センター中央市民病院、兵庫県立こども病院、奈良県立医科大学附属病院、日本赤十字社和歌山医療センター、和歌山県立医科大学附属病院

● 中国・四国地方

鳥取大学医学部附属病院、島根大学医学部附属病院、国立病院機構南岡山医療センター、岡山大学病院、広島大学病院、山口大学医学部附属病院、徳島大学病院、香川大学医学部附属病院、愛媛大学医学部附属病院、高知大学医学部附属病院

● 九州・沖縄地方

国立病院機構福岡病院、佐賀大学医学部附属病院、長崎大学病院、熊本大学病院、大分大学医学部附属病院、宮崎大学医学部附属病院、鹿児島大学病院、琉球大学病院

● 今後の予定

国民へのアレルギー疾患に関する正しい情報の普及、啓発を行うため、調査結果をアレルギーポータル (<https://allergyportal.jp>) へ掲載します。

また、今後も定期的に調査を実施し、年齢の推移による、経時的なアレルギー疾患の有病率から、アレルギーマーチの実態を把握します。

引き続きみなさまのご協力をよろしくお願いいたします。

<https://allergyportal.jp>

アレルギーポータル

検索



本研究は 令和4年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金(免疫アレルギー疾患政策研究事業)を受け、実施した研究成果です。

お問い合わせ

富山大学医学部小児科学教室 アレルギー疾患疫学調査事務局

富山県富山市杉谷2630 電話：076-434-7313(直通) Fax：076-434-5029